

真剣に研修を受ける職員（阿知須共立病院で）



職員向けに禁煙研修

阿知須共立病院 たばこの危険性 再認識

山口市の阿知須共立病院（三好正規院長）は4日、禁煙週間にちなんで職員向けの禁煙研修会を開いた。約110人がたばこの危険性や禁煙の効果について再確認した。

研修会は総合検診センター長で禁煙外来担当医の藤井郁英医師が講師を務めた。今回で4回目。院内アンケートによると、同職員の喫煙率は全体の12%で、前回（2011年）調査時より6%減少した。喫煙をやめた理由には、自身の健康や周りへの影響を考えたという意見が半数以上を占めた。藤井医師は「ニコチンを吸うことによってイライラの原因をつくっている。禁煙がストレス解消の近道」と伝えた。

三好院長は「藤井医師の働き掛けによって、院内でも喫煙者が減っている。目標は職員の喫煙ゼロ」と話した。

同院では世界禁煙デーのテーマ「たばこの煙から子ども達を守る」に沿って、新型たばこを含めた子どもの受動喫煙防止のための禁煙活動に力を入れている。（若槻）

田口氏の著書「家族を救った」の著者である田口山根さん。「家族を救った」という言葉が印象に残っているという。山根さん。「家族を救った」という言葉が印象に残っているという。山根さん。「家族を救った」という言葉が印象に残っているという。

日本赤十字社県支部（支部長・村岡嗣政知事）は5日、山口市野田の山口赤十字病院で災害時に医療救護活動を行う救護員の任命式を開いた。同病院の医師、看護師ら74



辞令を受ける代表

県支部は県内外の災害時に出勤しており、昨年7月の西日本大雨災害では広島県坂町などで活躍した。（重岡）